

随筆

シニアサッカー

アキラ設備設計
瑞慶覧 長明

私は現在50代半ばで、いわゆるシニアの世代です。この年代は、毎日を健康で元気に過ごせるよう、健康管理に気がついたり、ゴルフ、野球、テニスやNAHAマラソンへ挑戦したりと、スポーツを楽しみながら体力づくりを行っている人が多いと思います。

私の場合は、平均年齢50歳ぐらいの、同年代の仲間とサッカーチームを作り、毎月1、2回程度、同じシニアチーム相手に、試合を楽しんでいます。気がつくとも今年で17年になりました。

サッカーを始めたきっかけは、高校のサッカー部の先輩から、「今度チームを作るから一緒にサッカーしよう」と声を掛けられ、参加するようになってからです。

その年はJリーグ発足の年で、日本中がサッカーに関心が集まり、サッカー熱が大いに盛り上がった時期でした。それに刺激されてチーム結成となったのです。

チーム結成当初は、20年ぶりにサッカーを始めたこともあり、体力が10分も持たないのです。それで30分ハーフで、フリー交代のルールにして試合を行っていました。

当時同年代の対戦チームを探したがなかなか見つからず、とりあえず試合がしたかったので、無謀ではあったが、OBが監督を務める高校のサッカー部や、チームのメンバーの、職場関係の、20代の社会人チームなど、若者と試合を行っていました。当然勝負になるはずもなく、毎試合一方的に攻められ続け、惨敗続きでした。

私はゴールキーパーをしているのですが、若者たちとの試合では毎回シュートを20本以上受けて、キーパーの練習をしているようなものでした。おかげで、みんなから、現役時代より上手になった、なんて言われたりしていました。

現在毎月対戦している同年代のチームと出会うまでのおよそ2年間は、そんな状態が続いていました。

私のデビュー戦は、高校生チームとの対戦でした。その試合は今でも、特に印象に残っている。まず、初めてサッカーシューズを履いて試合に出たのです。というのは、私が高校でサッカーをしていた当時、サッカーシューズは高価でなかなか買ってもらうことができなかったのです。また運動靴でも公式戦に出ることが出来たので、結局高校時代はサッカーシューズを履くことがなかったのです。それだけに初めてサッカーシューズを履いてボールを蹴ったときは非常に嬉しかったことを覚えています。

次に、初めてけがをして痛い思いをしたのです。それは、試合中ゴール前で、至近距離から打たれたシュートを指先で受けて、右手人差し指の第一関節の指が裂けたのです。今はキーパーグローブを着けるのが常識ですが、その時は、素手でプレーをしていたのです。急いで救急病院へ行って、傷口を縫ってもらったのですが、手当てをしてくれた医者が凡帳面だったのか、またはサービスしたのか、7針も縫ってくれたのでした。

おかげで傷跡がほとんどわからないほどきれいに直りました。それ以来グローブは必需品になっています。

私にとっては、高校時代が一番楽しかった時期だったように思います。その当時の仲間と一緒に月1、2度ではあるが、サッカーをすることで、気持ちは若かりしあのころに戻るのです。それで、現在まで長続きしているのではないかと思います。

チーム結成当時は、みんな5分もすると、息切れがして思うように動けなかったが、少しずつではあるが体力もついてきて、今では1試合をフルに動き回れるほどになってきています。これからも無理をせず、とりあえず、還暦のサッカープレーヤーめざして、楽しみながらサッカーを続けることができれば、と思っています。